

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3873800373
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 宇和ひまわり A棟
記入者(管理者) 氏名	土居 ひとみ
自己評価作成日	1年 9月 30日

<p>【事業所理念】 笑顔ある生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ケアプランの達成感がわかりにくかったので、様式を変更し評価するようにして全員が取り組みやすくなったし 認知症カフェを開催し近所の人の係わりをもち、施設の理解を深めてもらえるよう努めている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は田畑に囲まれた静かな環境の中にあり、「笑顔ある生活」を理念に掲げ、利用者が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう努めている。利用者の外出の機会を増やし、認知症カフェを開催することで地域との交流を深めて連携を図り、近隣の保育園児に定期的に遊戯を披露してもらう等、利用者が地域と関わりながら暮らしていけるようにしているが、今回地域アンケートの回答がほとんど得られなかったため、事業所が地域との交流を積極的にやっていることを広く知ってもらえるようさらなる丁寧な取組みを期待したい。</p>
---------------------------	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人に聞いたり、家族から情報をきいたりし職員で共有している	◎	/	○	入居時に利用者や家族から情報を得るほか、日々の生活の中で聞き取ったこと等も追加し、相談受付票や暮らしの情報シート等にまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や仕草などをみて検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、知人から話をきいて職員間で話し合いをしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個別の暮らしの状況用紙に記録し全員が把握できるようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意思疎通困難な方がおられるが、思い込みにならないよう職員で話し合いをしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人・家族から情報を聞き取り記録している	/	/	○	利用者の今までの暮らし方や入院、受診歴等の情報を家族や介護支援専門員等から入手し、職員全員で確認・共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的にあセスメントを行い、現状の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録に状態の変化を記録し、把握できるようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	会議や申し送りで話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に暮らしの様子を記録している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の行動・話などにより、職員間で意見交換をし必要な支援を考えている	/	/	○	日々の暮らしに関する情報とアセスメントシートを活用し、職員会議や申し送り等で、本当に望んでいるケアを利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントシートを活用し課題を明らかにする	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から思いや要望を聞きケアプランを作成している	/	/	/	利用者から暮らし方の要望等を聞き、それに基づいて家族や職員等関係者と話し合い、意見等を反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向やどう暮らしたいかを聞き、その人らしい生活ができるようケアプランを作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	他の利用者とは過ごせるようリビングに誘導している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の行事に参加しているが、全員参加はできていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録にケアプランをはさんで、いつでも確認できるようにしている	/	/	○	利用者の介護計画は、個人ファイルの介護記録用紙の前に挟み、常に職員が確認できるようにしている。日々のケアの中で気づいたことをスタッフ会議の中で情報交換し、毎月モニタリングで介護計画に沿ったケアに取り組んでいるか確認している。利用者の言動等は細かく記録しているが、職員から出るアイデアは記録にばらつきがあるため、今後は職員全員でアイデアに関する記録の必要性について再認識した上で、わかりやすく記録するよう努め、職員がいつでも見られるよう個人ファイルに綴じて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランにそって記録し気づき等話し合い支援支援している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に言語・行動など細かく記入している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	会議で話し合っているが個別の記録ができていないことがある	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	月に一回見直しをしている	/	/	○	介護計画は、3か月ごとに見直ししている。毎月モニタリングで利用者の現状を確認し、利用者の状態に変化があれば、家族等関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一回見直しをし報告・確認を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に応じ、本人・家族と話し合っ介護計画をしている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回の会議を行っている。緊急の場合は申し送りなどで話し合っている	/	/	○	毎月定期的に日々のケアに関する会議を開催するほか、緊急の場合は申し送りで伝達している。会議録は会議ノートにまとめられており、不参加の職員を含め、会議ノートを確認することで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	担当者がケアプランを作成し意見交換している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全員参加できる日程にしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容を記録し、後で確認してもらっている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りや介護日誌を確認しサインをできるようにしている	/	/	○	家族の希望等は、重要事項として日誌に記録し、必ず職員全員で確認・サインして共有しており、確実に情報伝達ができるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の状態や重要事項など申し送りをしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	できるだけ本人の希望を叶えられるよう支援している	/	/	/	毎朝リビングで、日中何をしておきたいか利用者一人ひとりに選んでもらっており、写経や花飾り、かるた等に取り組んでいる。利用者ができることや得意なことを、楽しみながら行えるよう職員全員でサポートしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクで何をしたいかや、お楽しみ献立日を作り、何が食べたいか意見を取り入れている	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の意思に沿って、自由に過ごせるよう見守っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活ペースにあわせて支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人が出来る事、得意な事をしてもらい、楽しみをもてるようにしている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情や全身の反応をみながら、思いを汲みとれるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	会議で話している。問題がある場合は注意している	◎	◎	○	人権や尊厳については、職員会議で話し合い、利用者のプライバシーを尊重したケアができるようにしている。トイレ誘導等は利用者のプライドに配慮し、さりげなく声をかけている。居室へは、必ず利用者に声をかけて承諾を得てから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげない言葉かけや対応ができるよう心がけている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	なるべく耳元で声掛けしプライバシーに注意している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は本人に声掛けし了解を得ている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会を行っている。電話などの問い合わせにも注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など毎日できる事を職員と一緒にしてもらい感謝の言葉も伝える	/	/	/	職員は利用者に寄り添い、孤立しそうな利用者が出ないように心がける等、利用者同士が良好な関係を保てるようにしている。リビングのソファやたたみの間は憩いの場になっており、会話しやすい環境が整っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が係わり、支え合って生活できる援助を心がけている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者同士が近くで話ができるようにしている。孤立しそうな利用者は、職員が入り、他の利用者とは良好な関係が保てるよう援助する	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうな時は、職員が入り声掛けをしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	聞き取り、記録し把握できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握できるよう記録をできるようにしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	情報シートに記録しているが、個別に対応できていないし、知人等も高齢になり会いに行けない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来訪した方が、居室やリビングでゆっくり過ごせるよう声掛けや飲み物を出している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ベランダに出たり、散歩に出たりする。外出は全員が参加できるようにしている	○	-	△	玄関の外にあるいすでゆっくり過ごしたり、近所を散歩したり、畑の世話をしたり、花を見に行ったりする等、重度の利用者を含め、外の空気を吸って気分転換が図れるよう屋外活動を積極的に行っているが、地域アンケートの回答がなく、評価が得られていないため、今後は運営推進会議等の場を活用し、地域関係者に外出支援の取組みについて理解が得られるよう取り組むことを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	施設の職員で対応している。老健施設の協力を得ている				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ベランダに出たり、車イスで散歩に出たりしている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	出来るだけ希望に沿いたい、対応できないことがある				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員で話し合っ、不安や混乱の予防、支援の工夫をしている				毎朝ラジオ体操やDVD体操、パズル、早口言葉、合唱等利用者全員が集まって活動しており、職員は利用者の安全を確保し、見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	バイタルチェックを行い、身体の状態把握をし、一連の動作が自分で出来るよう声掛けを行い介助している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存能力を引き出し出来る事はなるべく本人にしてみよう声掛け見守りを行っている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人にとっての楽しみや役割をもてるように考えている				利用者の状況を踏まえて洗濯物を干すことやたたむこと、野菜の皮むき、下膳の手伝い等、一人ひとりが役割や出番を日課としており、楽しみながら取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々で出来る事、楽しみや役割をもてるように支援している	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園児との交流やボランティアの方との交流を楽しんでもらっている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が持っている衣類などのバランスを考えている				衣服の汚れ等整容の乱れに気づいた時は、周りにわからないようさりげなく声をかけてカバーしている。重度の利用者を含め、訪問整容を活用し、好みの髪型に整える等おしゃれを楽しんでおり、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	着慣れた服を用意してもらっている。本人の選択できるようきいている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人と話をしながら支援するようにしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節にあつた服を楽しめるよう援助している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類の汚れがあれば、早めに着替えてもらい、他の汚れにも気を付けて、さりげなく声掛けするようにしている	◎	○	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問整容師にきてもらい、長さなど本人に確認してもらっている。パーマをかけたい人は、連れて行くようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を心がけている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者と共に食事を楽しんでいる				献立作りや買い物、調理の下ごしらえや後片付け等は利用者と一緒にを行い、食事に対する意識を高めている。里芋等畑にある季節の食材を使用して煮物を作る等、利用者には季節感も味わってもらっている。食器は利用者が使いやすいものを使用している。職員も一緒に食卓を囲み、食事にまつわる会話を楽しみながら同じメニューを摂っている。重度の利用者を含め、台所の調理の音や匂いを感じながら食事ができるのを心待ちにしている様子が窺えた。職員間で定期的に栄養バランスについて話し合う機会は設けられていないため、利用者にバランスの取れたメニューが提供できるよう話し合う機会を設けて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物に行く人、献立の案を出す人、後片付けの協力をする人、それぞれの状況で手伝ってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	行事でおはぎ作りなどをしている。後片付けができる人はしてもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に家族や本人から聞いた内容を職員で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節感のある食材を取り入れている。苦手なものがある人は別の物と作っている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の機能にあわせ調理を行い、キザミにしたり、水分はとろみをつけたりし提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していたものを持ってきてもらっている 機能にあわせてものを使っている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守りしている。状態にあわせ隣に座り声掛け介助している			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	料理の匂いを感じることができる	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分、食事を個別で記入し対応している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量が少ない時は、こまめに飲用してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養士や職員との話し合いが出来ていない			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は魚、肉、野菜で分けている。毎日漂白剤使用している				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修参加し学んでいる。会議で研修報告をし話し合っている	/	/	/	利用者自身で歯磨きできるよう支援している。口腔機能の状態を把握し、口腔内の清潔が保てるよう常に口腔内をチェックしている。入れ歯の利用者は夜間に外す等、衛生面でも配慮している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	指導は受けていないが、義歯の調整・相談はしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛け、見守りしている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	できる所はしてもらい、磨き残しを職員が介助している	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	状態の説明を家族にし、歯科医を受診、往診に来てもらっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	トイレでの排泄を基本に支援し、利用者一人ひとりの排泄パターン等を把握した上で、トイレに誘導している。利用者の状態に合った排泄用品を使用できるよう話し合い、最適なものを選んでいく。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や研修参加して理解できている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個別の排泄チェック表で把握できるようにしている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。会議などで、見直し、話し合いをしている	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ声掛け誘導をしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族と話し合いをし、種類や時間帯を決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態にあわせて使用している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食べ物・飲み物を工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の体調にあわせて入浴を行っている。入りたいと訴えがあれば、入れるようにしている	/	◎	○	週2回入浴できるようになっており、曜日や時間帯は、利用者の要望に応じて臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	焦ることがないように、ゆっくりできるような心がけている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる所は本人にしてもらっている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	毎日声掛けを行ったり、今までの習慣や時間帯を考え誘導している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前は、バイタルチェックをし、入浴後は水分補給を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	状態を記録し把握できるよう努めている	/	/	/	日中利用者には、体操やレクリエーション等で体を動かしてもらい、気持ち良く眠りに入れるようにしている。夜間に起きた場合でもソファ等でお茶を飲みゆっくりと過ごしてもらう等、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間活動の誘導をしたり、話をしたり夜間良眠できるようにしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、体操やレクなど活動に参加してもらう。それでも眠れない場合は、医師に相談している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望や体調にあわせ自室で休めるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	毎月家族への手紙をかいてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	声掛け誘導にて毎月家族への手紙をかいてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあれば、いつでも電話ができる	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、声掛けではがきを書かれる	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力してもらっている。家族からも電話をしてもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解できているが、機会をつくっていない	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品など買い物に出かけているが、お金を使うことは少ない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	行きつけはないが、親切に対応してもらっている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	能力に応じて所持してもらっている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族や本人と話し合いをしている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり帳を作成して、月に1回コピーを送付している。領収書も送付。面会時に家族に確認し、サインをもらっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	来訪時、家族と共に食事をしてもらう事がある	/	/	◎	○ 急な病院受診に職員が付き添う等、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	網戸にしたり、花を置いていたりしている	◎	◎	◎	玄関周辺には季節の花が植えられ、親しみやすく入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	殺風景にならないよう花を活けたり、写真を飾ったりしている	○	◎	◎	リビングには数多くのソファが置かれ、全員が集まって話しやすいようになっている。畳の間もあり、落ち着いたのんびりと過ごせる空間が作られている。きれいに清掃が行き届き、換気にも気を使う等、臭いもなく清潔感がある。リビングには季節の花を生ける等、季節感が味わえるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日気をつけている。消臭剤をおいている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を利用者と活けている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでみんなと過ごしたり、テーブルで過ごしたりできる	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	戸を開けたままにしない	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべての物やほしい物を持って来てもらっている	◎	/	/	家族の写真やぬいぐるみ等、思い出のある大切なものを飾り、居心地良く過ごせるようにしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関にイスを置いて、自分で靴が履けるようにしている	/	/	○	居室がわかりやすいようドアの横にネームプレートを吊り下げている。事業所内はバリアフリーで、廊下に手すりを設置する等、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレがわかりやすいように表示している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌やアルバムなどリビングに置き自由にみれるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は鍵をかけないで自由に出入り出来るようにしている。外に出られるよ時は職員が付き添っている	◎	○	◎	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、玄関等出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	入所時に家族理解を得ている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の戸が開くと音がなるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前に聞き取り調査をおこなって職員で共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、異常の発見に努めている。異常時は記録をしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週に1回、訪問看護師に相談し早めの対応に努めている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前に受診状況、希望をきいている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望を大切に支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果は電話や面会時に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時、家族や医療機関にスムーズな情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	面会し、その都度看護師、医師に経過を聞くようにし、場合によっては、家族をふくめカンファレンスを行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	毎月の受診で、必要時は相談などし関係作りをしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護師に相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	訪問看護師に来てもらい健康管理、変化に対応できるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を介護記録につけて、いつでもみれるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	名前の確認、名前を呼び手渡し、服薬の確認をする				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の変化の観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方が変わったら記録し、申し送りや伝え変化があれば記録し情報提供できるようにしている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化があれば、家族に相談し支援内容を話し合っている	/	/	/	重度化や終末期に対するケアについては、家族や医療関係者等と話し合う機会を設けており、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、医療機関と話し合って方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	相談しながら支援をしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事務所の方針について、説明、理解を得るようにしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と連携をとっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族との話し合いをしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修参加し会議で報告している。内部研修も行っている	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	会議で話し合いはしているが、訓練が出来ていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	研修参加し情報の共有とネットなどで知り得た情報を話し合う	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市などからの情報を得て予防対策をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関にマスク、消毒液を常備している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時や手紙で本人の様子を伝え、家族と一緒に考えている	/	/	/	年2回家族会で食事会を開催し、大勢の家族に参加してもらっている。毎月ひまわりだよりを発行し、定期的に利用者の様子を手紙を添えて報告している。事業所の設備等運営面や職員の異動等については、家族に伝わってらず理解が得られていないため、今後はひまわりだよりを上手く活用し、家族に認識してもらおう報告方法を工夫して欲しい。家族の面会時には、職員が声をかけて利用者の普段の様子を伝える等、話しやすい雰囲気づくりをしており、家族は気軽に相談できるようになっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時居室などで、ゆっくり話ができるように過ごしてもらい、一緒におやつを食べてもらっている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を年2回している	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月本人の様子を手紙で書いて送付している。広報紙を出し様子がわかるようにしている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	言いやすい雰囲気を心がけ、面会時に、それとなく思いや希望をきいている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時話をしている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時やホームだよりで伝えている	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年2回の家族会で交流が出来るようにしている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクに対し説明し対策を話し合うようにしている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には声掛けをし、状態説明を行い意見が言いやすいようにしている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し、理解、納得を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、家族と話し合い同意、支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料の変更があれば、文書で連絡、同意を得ている。家族会を利用し説明を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	開設時は説明会を行ったが、その後出来ていない	/	◎	/	認知症カフェを開催し、近隣住民に参加してもらっている。三味線や踊り、歌等のボランティア活動の受け入れにも力を入れており、日頃から地域と連携する活動に積極的に取り組むことで、利用者が地域とつながりながら生活できるよう支援している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事(地方祭や秋祭りなど)に参加している	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の人達に声掛け、来訪してもらう	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェを行い交流している	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をかけあっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	地域のボランティアの方に来てもらったり、なるべく外出の機会をつくったりしている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	美容室に行きたい利用者は行けるよう支援している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	外食で利用させてもらったり、美容室の方に協力してもらっている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加してもらっている	x	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、市職員等が参加しているが、会議に参加できない家族の理解が得られていないため、今後は説明用資料を添えて議事録を送付する等、家族へのわかりやすい報告が望まれる。外部評価の結果等事業所の取組み状況について報告して意見をj得ている。会議の参加者全員から意見を聞き、運営に活かせるよう話し合い、さらなるサービス向上に努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員の意見を聞いている。意見を今後の運営に生かせるようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	予定を早く知らせている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関のところにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会議の時に話し、理念に添ったケアができるよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関先の見える所に啓示しているが、口頭で伝えていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画している	/	/	/	代表者は週3回事業所を訪れ、職員と関わることで職場の状況を把握しており、気軽に悩みごとの相談に乗る等、ストレスのない働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個人の希望に添いスキルアップできるよう協力している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の勤務状況など考え給与、賞与に反映している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との交流に取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	一部の職員であるが、悩みなど相談にのっている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	会議で勉強会をし理解を深めている	/	/	/	職員は毎年研修の機会があり、不適切なケア等に対する対応方法や手順等について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議で意見交換し話し合いをする	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉かけや態度などみているなかで話し合いをしている。申し送りや会議で話し合っている	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気になることがあれば話を聞くようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員が研修などで学び、具体的な内容について共通の認識を持っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の行動を制限していないか会議で話合う	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	具体的な対応を示し理解を得るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会を行う				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応、支援する				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議に包括支援センターから来てもらっているので連絡できる				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練が出来ていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書作成し、会議で防止対策を話し合う				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送り等で話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合速やかに対応し、職員間で話し合うようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	対応策について話し合っている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して検討し、速やかに回答、サービスの改善、経過や結果を前向きに話し合い関係作りをしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	係わりのなかで気づきがあれば、話をきき対応するようにしている			○	利用者からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時に意見等を聞くようにしている。管理者と職員は日頃から気軽に話し合える関係が築けており、意見や要望を聞き、利用者本位の支援ができるよう話し合っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情箱、用紙を用意し設置している	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日頃よりコミュニケーションをとり、気になることがないか相談や声掛けをしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者が報告している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議で一人ひとり意見をきいている			○	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	外部評価の結果を運営推進会議で報告しているが、家族に伝わっておらず十分な理解が得られていないため、今後は家族にも事業所の取組みを理解してもらい、モニターを依頼してさらなるサービス向上につなげて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価をすることで職員が取組、意識レベルアップにつなげている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前向きに取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議で報告している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成して職員にも伝えている	/	/	/	年2回避難訓練を行うほか、運営推進会議で緊急災害時に関する話し合いを行い、地域の消防団の活用も検討する等連携ができつつあるが、地域との合同避難訓練等実施には至っていないため、家族や地域住民等にも参加してもらおう形で合同避難訓練を実施し、緊急災害時の協力体制を構築して安全確保に万全を期すことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回消防署から来てもらい、いろんな想定で訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	できるだけ備蓄に努めている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議で話し合いをしている。消防団との係わりを持っているが、訓練の参加は出来ない	○	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	伊方発電所の災害想定で市の訓練に参加した	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症カフェを行い、地域の人に参加してもらい、利用者と一緒に体操やお茶をし交流している	/	/	/	地域に事業所の相談支援について認識されており、地域住民からの相談にも積極的に対応する等、地域の相談ニーズの充足に努めている。認知症カフェを開催する等、地域関係機関との連携を密にして活動に取り組み、認知症ケア拠点として地域との協力体制を構築している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方の相談があり話している	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	認知症カフェをしている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	学校などに受け入れしていることを伝えているが、依頼がない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の行事に参加し連携をとっている	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3873800373
事業所名	グループホーム 宇和ひまわり
(ユニット名)	B棟
記入者(管理者)	
氏名	土居 ひとみ
自己評価作成日	1年 9月 30日

<p>【事業所理念】 笑顔ある生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ケアプランの達成感がわかりにくかったので、様式を変更し評価するようにして全員が取り組みやすくなったし 認知症カフェを開催し近所の人の係わりをもち、施設の理解を深めてもらえるよう努めている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は田畑に囲まれた静かな環境の中にあり、「笑顔ある生活」を理念に掲げ、利用者が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう努めている。利用者の外出の機会を増やし、認知症カフェを開催することで地域との交流を深めて連携を図り、近隣の保育園児に定期的に遊戯を披露してもらう等、利用者が地域と関わりながら暮らしていけるようにしているが、今回地域アンケートの回答がほとんど得られなかったため、事業所が地域との交流を積極的にやっていることを広く知ってもらえるようさらなる丁寧な取組みを期待したい。</p>
---------------------------	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人に聞いたり、家族から情報をきいたりし職員で共有している	◎	/	○	入居時に利用者や家族から情報を得るほか、日々の生活の中で聞き取ったこと等も追加し、相談受付票や暮らしの情報シート等にまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や仕草などをみて検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、知人から話をきいて職員間で話し合いをしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個別の暮らしの状況用紙に記録し全員が把握できるようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意思疎通困難な方がおられるが、思い込みにならないよう職員で話し合いをしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人・家族から情報を聞き取り記録している	/	/	○	利用者の今までの暮らし方や入院、受診歴等の情報を家族や介護支援専門員等から入手し、職員全員で確認・共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的にあセスメントを行い、現状の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	介護記録に状態の変化を記録し、把握できるようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	会議や申し送りで話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に暮らしの様子を記録している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の行動・話などにより、職員間で意見交換をし必要な支援を考えている	/	/	○	日々の暮らしに関する情報とアセスメントシートを活用し、職員会議や申し送り等で、本当に望んでいるケアを利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントシートを活用し課題を明らかにする	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から思いや要望を聞きケアプランを作成している	/	/	/	利用者から暮らし方の要望等を聞き、それに基づいて家族や職員等関係者と話し合い、意見等を反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向やどう暮らしたいかを聞き、その人らしい生活ができるようケアプランを作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	他の利用者と過ごせるようリビングに誘導している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の行事に参加しているが、全員参加はできていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録にケアプランをはさんで、いつでも確認できるようにしている	/	/	○	利用者の介護計画は、個人ファイルの介護記録用紙の前に挟み、常に職員が確認できるようにしている。日々のケアの中で気づいたことをスタッフ会議の中で情報交換し、毎月モニタリングで介護計画に沿ったケアに取り組んでいるか確認している。利用者の言動等は細かく記録しているが、職員から出るアイデアは記録にばらつきがあるため、今後は職員全員でアイデアに関する記録の必要性について再認識した上で、わかりやすく記録するよう努め、職員がいつでも見られるよう個人ファイルに綴じて欲しい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランにそって記録し気づき等話し合い支援支援している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に言語・行動など細かく記入している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	会議で話し合っているが個別の記録ができていないことがある	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	月に一回見直しをしている	/	/	○	介護計画は、3か月ごとに見直ししている。毎月モニタリングで利用者の現状を確認し、利用者の状態に変化があれば、家族等関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に一回見直しをし報告・確認を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化に応じ、本人・家族と話し合って介護計画をしている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回の会議を行っている。緊急の場合は申し送りなどで話し合っている	/	/	○	毎月定期的に日々のケアに関する会議を開催するほか、緊急の場合は申し送りで伝達している。会議録は会議ノートにまとめられており、不参加の職員を含め、会議ノートを確認することで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	担当者がケアプランを作成し意見交換している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全員参加できる日程にしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容を記録し、後で確認してもらっている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りや介護日誌を確認しサインをできるようにしている	/	/	○	家族の希望等は、重要事項として日誌に記録し、必ず職員全員で確認・サインして共有しており、確実に情報伝達ができるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者の状態や重要事項など申し送りをしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	できるだけ本人の希望を叶えられるよう支援している	/	/	/	毎朝リビングで、日中何をしておきたいか利用者一人ひとりに選んでもらっており、写経や花飾り、かるた等に取り組んでいる。利用者ができることや得意なことを、楽しみながら行えるよう職員全員でサポートしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクで何をしたいかや、お楽しみ献立日を作り、何が食べたいか意見を取り入れている	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の意思に沿って、自由に過ごせるよう見守っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活ペースにあわせて支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人が出来る事、得意な事をしてもらい、楽しみをもてるようにしている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身の反応をみながら、思いを汲みとれるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	会議で話している。問題がある場合は注意している	◎	◎	○	人権や尊厳については、職員会議で話し合い、利用者のプライバシーを尊重したケアができるようにしている。トイレ誘導等は利用者のプライドに配慮し、さりげなく声をかけている。居室へは、必ず利用者に声をかけて承諾を得てから入るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげない言葉かけや対応ができるよう心がけている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	なるべく耳元で声掛けしプライバシーに注意している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は本人に声掛けし了解を得ている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会を行っている。電話などの問い合わせにも注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など毎日できる事を職員と一緒にしてもらい感謝の言葉も伝える	/	/	/	職員は利用者に寄り添い、孤立しそうな利用者が出ないように心がける等、利用者同士が良好な関係を保てるようにしている。リビングのソファやたたみの間は憩いの場になっており、会話しやすい環境が整っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が係わり、支え合って生活できる援助を心がけている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者同士が近くで話ができるようにしている。孤立しそうな利用者は、職員が入り、他の利用者とは良好な関係が保てるよう援助する	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうな時は、職員が入り声掛けをしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	聞き取り、記録し把握できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握できるよう記録をできるようにしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	情報シートに記録しているが、個別に対応できていないし、知人等も高齢になり会いに行けない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来訪した方が、居室やリビングでゆっくり過ごせるよう声掛けや飲み物を出している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ベランダに出たり、散歩に出たりする。外出は全員が参加できるようにしている	○	-	△	玄関の外にあるいすでゆっくり過ごしたり、近所を散歩したり、畑の世話をしたり、花を見に行ったりする等、重度の利用者を含め、外の空気を吸って気分転換が図れるよう屋外活動を積極的に行っているが、地域アンケートの回答がなく、評価が得られていないため、今後は運営推進会議等の場を活用し、地域関係者に外出支援の取組みについて理解が得られるよう取り組むことを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	施設の職員で対応している。老健施設の協力を得ている				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ベランダに出たり、車イスで散歩に出たりしている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	出来るだけ希望に沿いたい、対応できないことがある				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員で話し合っ、不安や混乱の予防、支援の工夫をしている				毎朝ラジオ体操やDVD体操、パズル、早口言葉、合唱等利用者全員が集まって活動しており、職員は利用者の安全を確保し、見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	バイタルチェックを行い、身体の状態把握をし、一連の動作が自分で出来るよう声掛けを行い介助している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存能力を引き出し出来る事はなるべく本人にしてみよう声掛け見守りを行っている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人にとっての楽しみや役割をもてるように考えている				利用者の状況を踏まえて洗濯物を干すことやたたむこと、野菜の皮むき、下膳の手伝い等、一人ひとりが役割や出番を日課としており、楽しみながら取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々で出来る事、楽しみや役割をもてるように支援している	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園児との交流やボランティアの方との交流を楽しんでもらっている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が持っている衣類などのバランスを考えている				衣服の汚れ等整容の乱れに気づいた時は、周りにわからないようさりげなく声をかけてカバーしている。重度の利用者を含め、訪問整容を活用し、好みの髪型に整える等おしゃれを楽しんでおり、その人らしさが保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	着慣れた服を用意してもらっている。本人の選択できるようきいている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人と話をしながら支援するようにしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節にあつた服を楽しめるよう援助している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類の汚れがあれば、早めに着替えてもらい、他の汚れにも気を付けて、さりげなく声掛けするようにしている	◎	○	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問整容師にきてもらい、長さなど本人に確認してもらっている。パーマをかけたい人は、連れて行くようにしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	清潔を心がけている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者と共に食事を楽しみんでいる				献立作りや買い物、調理の下ごしらえや後片付け等は利用者と一緒に、食事に対する意識を高めている。里芋等畑にある季節の食材を使用して煮物を作る等、利用者には季節感も味わってもらっている。食器は利用者が使いやすいものを使用している。職員も一緒に食卓を囲み、食事にまつわる会話を楽しみながら同じメニューを摂っている。重度の利用者を含め、台所の調理の音や匂いを感じながら食事ができるのを心待ちにしている様子が窺えた。職員間で定期的に栄養バランスについて話し合う機会は設けられていないため、利用者にバランスの取れたメニューが提供できるよう話し合う機会を設けて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物に行く人、献立の案を出す人、後片付けの協力をする人、それぞれの状況で手伝ってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	行事でおはぎ作りなどをしている。後片付けができる人はしてもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に家族や本人から聞いた内容を職員で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感のある食材を取り入れている。苦手なものがある人は別の物と作っている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の機能にあわせ調理を行い、キザミにしたり、水分はとろみをつけたりし提供している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していたものを持ってきてもらっている 機能にあわせてものを使っている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守りしている。状態にあわせ隣に座り声掛け介助している			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	料理の匂いを感じることができる	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分、食事を個別で記入し対応している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量が少ない時は、こまめに飲用してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養士や職員との話し合いが出来ていない			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は魚、肉、野菜で分けている。毎日漂白剤使用している				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修参加し学んでいる。会議で研修報告をし話し合っている	/	/	/	利用者自身で歯磨きできるよう支援している。口腔機能の状態を把握し、口腔内の清潔が保てるよう常に口腔内をチェックしている。入れ歯の利用者は夜間に外す等、衛生面でも配慮している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	指導は受けていないが、義歯の調整・相談はしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛け、見守りしている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	できる所はしてもらい、磨き残しを職員が介助している	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	状態の説明を家族にし、歯科医に受診、往診に来てもらっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	トイレでの排泄を基本に支援し、利用者一人ひとりの排泄パターン等を把握した上で、トイレに誘導している。利用者の状態に合った排泄用品を使用できるよう話し合い、最適なものを選んでいく。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や研修参加して理解できている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個別の排泄チェック表で把握できるようにしている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。会議などで、見直し、話し合いをしている	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ声掛け誘導をしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人・家族と話し合いをし、種類や時間帯を決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態にあわせて使用している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食べ物・飲み物を工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の体調にあわせて入浴を行っている。入りたいと訴えがあれば、入れるようにしている	/	◎	○	週2回入浴できるようになっており、曜日や時間帯は、利用者の要望に応じて臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	焦ることがないように、ゆっくりできるような心がけている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる所は本人にしてもらっている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	毎日声掛けを行ったり、今までの習慣や時間帯を考え誘導している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前は、バイタルチェックをし、入浴後は水分補給を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	状態を記録し把握できるよう努めている	/	/	/	日中利用者には、体操やレクリエーション等で体を動かしてもらい、気持ち良く眠りに入れるようにしている。夜間に起きた場合でもソファ等でお茶を飲みゆっくりと過ごしてもらう等、安易に薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間活動の誘導をしたり、話をしたり夜間良眠できるようにしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中、体操やレクなど活動に参加してもらう。それでも眠れない場合は、医師に相談している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望や体調にあわせ自室で休めるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	毎月家族への手紙をかいてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	声掛け誘導にて毎月家族への手紙をかいてもらっている。手紙やはがきを書かれる方もいる	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあれば、いつでも電話ができる	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡し、声掛けではがきを書かれる	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力してもらっている。家族からも電話をしてもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解できているが、機会をつくっていない	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日用品など買い物に出かけているが、お金を使うことは少ない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	行きつけはないが、親切に対応してもらっている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	能力に応じて所持してもらっている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族や本人と話し合いをしている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり帳を作成して、月に1回コピーを送付している。領収書も送付。面会時に家族に確認し、サインをもらっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	来訪時、家族と共に食事をしてもらう事がある	◎	/	○	急な病院受診に職員が付き添う等、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	網戸にしたり、花を置いていたりしている	◎	◎	◎	玄関周辺には季節の花が植えられ、親しみやすく入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	殺風景にならないよう花を活けたり、写真を飾ったりしている	○	◎	◎	リビングには数多くのソファが置かれ、全員が集まって話しやすいようになっている。畳の間もあり、落ち着いたのんびりと過ごせる空間が作られている。きれいに清掃が行き届き、換気にも気を使う等、臭いもなく清潔感がある。リビングには季節の花を生ける等、季節感が味わえるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日気をつけている。消臭剤をおいている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を利用者と活けている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでみんなと過ごしたり、テーブルで過ごしたりできる	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	戸を開けたままにしない	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべての物やほしい物を持って来てもらっている	◎	/	/	家族の写真やぬいぐるみ等、思い出のある大切なものを飾り、居心地良く過ごせるようにしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関にイスを置いて、自分で靴が履けるようにしている	/	/	○	居室がわかりやすいようドアの横にネームプレートを吊り下げている。事業所内はバリアフリーで、廊下に手すりを設置する等、利用者が安全に自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレがわかりやすいように表示している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌やアルバムなどリビングに置き自由にみれるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は鍵をかけないで自由に出入り出来るようにしている。外に出られるよ時は職員が付き添っている	◎	○	◎	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、玄関等出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	入所時に家族理解を得ている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の戸が開くと音がなるようにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前に聞き取り調査をおこなって職員で共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックを行い、異常の発見に努めている。異常時は記録をしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週に1回、訪問看護師に相談し早めの対応に努めている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前に受診状況、希望をきいている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望を大切に支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果は電話や面会時に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時、家族や医療機関にスムーズな情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	面会し、その都度看護師、医師に経過を聞くようにし、場合によっては、家族をふくめカンファレンスを行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	毎月の受診で、必要時は相談などし関係作りをしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師に相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護師に相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	訪問看護師に来てもらい健康管理、変化に対応できるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を介護記録につけて、いつでもみれるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	名前の確認、名前を呼び手渡し、服薬の確認をする				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の変化の観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方が変わったら記録し、申し送りや伝え変化があれば記録し情報提供できるようにしている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化があれば、家族に相談し支援内容を話し合っている	/	/	/	重度化や終末期に対するケアについては、家族や医療関係者等と話し合う機会を設けており、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、医療機関と話し合って方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	相談しながら支援をしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事務所の方針について、説明、理解を得るようにしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と連携をとっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族との話し合いをしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修参加し会議で報告している。内部研修も行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	会議で話し合いはしているが、訓練が出来ていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	研修参加し情報の共有とネットなどで知り得た情報を話し合う	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市などからの情報を得て予防対策をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関にマスク、消毒液を常備している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時や手紙で本人の様子を伝え、家族と一緒に考えている	/	/	/	年2回家族会で食事会を開催し、大勢の家族に参加してもらっている。毎月ひまわりだよりを発行し、定期的に利用者の様子を手紙を添えて報告している。事業所の設備等運営面や職員の異動等については、家族に伝わって理解が得られていないため、今後はひまわりだよりを上手く活用し、家族に認識してもらおう報告方法を工夫して欲しい。家族の面会時には、職員が声をかけて利用者の普段の様子を伝える等、話しやすい雰囲気づくりをしており、家族は気軽に相談できるようになっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時居室などで、ゆっくり話ができるように過ごしてもらい、一緒におやつを食べてもらっている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を年2回している	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月本人の様子を手紙で書いて送付している。広報紙を出し様子がわかるようにしている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	言いやすい雰囲気を心がけ、面会時に、それとなく思いや希望をきいている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時話をしている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時やホームだよりで伝えている	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	年2回の家族会で交流が出来るようにしている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクに対し説明し対策を話し合うようにしている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には声掛けをし、状態説明を行い意見が言いやすいようにしている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し、理解、納得を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、家族と話し合い同意、支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料の変更があれば、文書で連絡、同意を得ている。家族会を利用し説明を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	開設時は説明会を行ったが、その後出来ていない	/	◎	/	認知症カフェを開催し、近隣住民に参加してもらっている。三味線や踊り、歌等のボランティア活動の受け入れにも力を入れており、日頃から地域と連携する活動に積極的に取り組むことで、利用者が地域とつながりながら生活できるよう支援している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事(地方祭や秋祭りなど)に参加している	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の人達に声掛け、来訪してもらう	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェを行い交流している	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をかけあっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	地域のボランティアの方に来てもらったり、なるべく外出の機会をつくったりしている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	美容室に行きたい利用者は行けるよう支援している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	外食で利用させてもらったり、美容室の方に協力してもらっている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加してもらっている	x	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、市職員等が参加しているが、会議に参加できない家族の理解が得られていないため、今後は説明用資料を添えて議事録を送付する等、家族へのわかりやすい報告が望まれる。外部評価の結果等事業所の取組み状況について報告して意見をj得ている。会議の参加者全員から意見を聞き、運営に活かせるよう話し合い、さらなるサービス向上に努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員の意見を聞いている。意見を今後の運営に生かせるようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	予定を早く知らせている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関のところにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会議の時に話し、理念に添ったケアができるよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関先の見える所に啓示しているが、口頭で伝えていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画している	/	/	/	代表者は週3回事業所を訪れ、職員と関わることで職場の状況を把握しており、気軽に悩みごとの相談に乗る等、ストレスのない働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	個人の希望に添いスキルアップできるよう協力している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の勤務状況など考え給与、賞与に反映している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との交流に取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	一部の職員であるが、悩みなど相談にのっている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	会議で勉強会をし理解を深めている	/	/	/	職員は毎年研修の機会があり、不適切なケア等に対する対応方法や手順等について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議で意見交換し話し合いをする	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉かけや態度などみているなかで話し合いをしている。申し送りや会議で話し合っている	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気になることがあれば話を聞くようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員が研修などで学び、具体的な内容について共通の認識を持っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の行動を制限していないか会議で話合う	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	具体的な対応を示し理解を得るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会を行う				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応、支援する				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議に包括支援センターから来てもらっているので連絡できる				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練が出来ていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書作成し、会議で防止対策を話し合う				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送り等で話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合速やかに対応し、職員間で話し合うようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	対応策について話し合っている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して検討し、速やかに回答、サービスの改善、経過や結果を前向きに話し合い関係作りをしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	係わりのなかで気づきがあれば、話をきき対応するようにしている			○	利用者からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時に意見等を聞くようにしている。管理者と職員は日頃から気軽に話し合える関係が築けており、意見や要望を聞き、利用者本位の支援ができるよう話し合っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情箱、用紙を用意し設置している		◎	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日頃よりコミュニケーションをとり、気になることがないか相談や声掛けをしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者が報告している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議で一人ひとり意見をきいている			○	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	会議で話し合いをしている	/	/	/	外部評価の結果を運営推進会議で報告しているが、家族に伝わっておらず十分な理解が得られていないため、今後は家族にも事業所の取組みを理解してもらい、モニターを依頼してさらなるサービス向上につなげて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価をすることで職員が取組、意識レベルアップにつなげている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前向きに取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告している	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議で報告している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成して職員にも伝えている	/	/	/	年2回避難訓練を行うほか、運営推進会議で緊急災害時に関する話し合いを行い、地域の消防団の活用も検討する等連携ができつつあるが、地域との合同避難訓練等実施には至っていないため、家族や地域住民等にも参加してもらおう形で合同避難訓練を実施し、緊急災害時の協力体制を構築して安全確保に万全を期すことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回消防署から来てもらい、いろんな想定で訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	できるだけ備蓄に努めている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議で話し合いをしている。消防団との係わりを持っているが、訓練の参加は出来ない	○	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	伊方発電所の災害想定で市の訓練に参加した	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症カフェを行い、地域の人に参加してもらい、利用者と一緒に体操やお茶をし交流している	/	/	/	地域に事業所の相談支援について認識されており、地域住民からの相談にも積極的に対応する等、地域の相談ニーズの充足に努めている。認知症カフェを開催する等、地域関係機関との連携を密にして活動に取り組み、認知症ケア拠点として地域との協力体制を構築している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方の相談があり話している	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	認知症カフェをしている	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	学校などに受け入れしていることを伝えているが、依頼がない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の行事に参加し連携をとっている	/	/	○	